

# 射水市地域公共交通計画骨子(案)

令和6年7月 射水市

資料1

## 【計画策定の趣旨】

本計画は、本市における公共交通ネットワークのあり方とそれを実現する方策を示す、地域公共交通施策の基本的計画として策定するものです。社会的な情勢や将来のまちづくりの方向性、公共交通の実態、将来的に見込まれる情勢を把握した上で、公共交通ネットワークのあり方を示し、そのために達成すべき目標を定め、目標達成のために行う事業内容、実施スケジュール及び各主体の役割等を示すこととしています。

計画の区域:射水市全域 計画の期間:令和7年度から令和11年度までの5年間(必要に応じて適宜見直し)

## 1 公共交通をとりまく現況の整理

### ●地勢

- ・富山県のほぼ中央に位置しており、北は富山湾に面し、東は富山市、西は高岡市に隣接
- ・市域は三角州状の低平な地形からなる平野部と丘陵地で構成されている。
- ・平成17年に5市町村が合併して誕生した市であり、**複数の市街地が分散**して存在する。

### ●社会情勢

- ・射水市の総人口は平成17年をピークに減少し、令和2年は約9.0万人、高齢化率は30.9%【富山県人口移動調査による実績】。
- ・令和14年の人口は、約8.2万人になると見込んでおり、人口減少に加え、高齢化もさらに進行することが想定される【国立社会保障・人口問題研究所による推計】。
- ・持続可能な社会の実現に向けた「カーボンニュートラル」の達成のため、過度な自家用車依存から脱却し、環境にやさしい公共交通の利用促進が求められている。

### ●公共交通全体の状況

- ・**公共交通による人口カバー率<sup>※1</sup>は92.7%と非常に高い【射水市地域公共交通網形成計画より】。**
- ・鉄道(あいの風とやま鉄道+万葉線)の利用者数は、平成30年度は2,750千人だったが、令和4年度には2,473千人に減少している。

※1 人口カバー率:駅から800mまたはバス停から300m以内の人口比率

### ●コミュニティバス等の状況

- ・コミュニティバス・デマンドタクシーの利用者数は、平成30年度は419千人だったが、令和5年度には388千人まで減少している。
- ・**コミュニティバスは令和6年6月から公共交通の運転手不足により一時的にやむを得ず一部で運休**
- ・コミュニティバスから「のるーと射水」<sup>※2</sup>の移行を令和6年3月から南東エリアにおいて、同年9月から北東エリアにおいて実施

※2 のるーと射水:AIを活用した予約型の乗合バス

## 2 公共交通に関するニーズ

### ●通勤・通学

- ・通学において公共交通の利用率が70%と非常に高い。また、富山・高岡方面への移動が約半数と**市外への移動需要が大きい**。
- 鉄道駅は重要な拠点であり、コミュニティバス・「のるーと射水」などでの接続について考慮が必要**

### ●日常生活の移動(買物・通院)

- ・**買物・通院などの日常の移動において、公共交通は一定の需要がある。**
- ・現在コミュニティバスが複数路線乗り入れている施設が移動先の上位(アプリオ、アルビス大島店、アル・プラザ小杉、射水市民病院、真生会富山病院等)となっている。
- これらは今後新しい交通体系を考えていく際にも**引き続き配慮が必要**

### ●公共交通利用者ニーズ・意向

- ・公共交通に対する不満の理由は、どの交通手段においても、「**運行本数が少なかった**」が比較的多く寄せられており、特にコミュニティバスでその意見が多い。
- ・公共交通(鉄道・バス等)の利用が増える工夫・改善について、「**予約に応じて自由に運行される交通**」や「**増便**」「**バスや鉄道との待ち時間の少ない乗り継ぎ**」に関する意見が多い。
- 増便やスムーズな乗り継ぎだけでなく、デマンド交通<sup>※3</sup>による利便性の向上も期待されている。**

※3 デマンド交通:利用者の予約に応じて運行する交通手段

## 3 関連計画における公共交通とまちづくり

上位計画  
における  
将来像

第3次射水市総合計画「まちの将来像」

「いろいろ ひろがる ムズムズ射水」

射水市都市計画マスタープラン「まちづくりの全体方針」

「居住・産業・レクリエーションと自然が調和する暮らしやすさと活力に満ちたまち」

### ●富山県地域交通戦略

- ・全市町村に鉄道が通る富山県の強みを活かし、駅を中心にあらゆるサービスがつながるネットワークを形成し、ウェルビーイングを向上させる持続可能な交通サービスを、「自治体の投資」と「県民の参画」により目指すとしている。

### ●射水市立地適正化計画

- ・「多核連携型の都市構造の構築」を掲げている。
- ・クロスベイ新湊周辺地区、小杉駅及び本庁舎周辺地区、太閤山地区、越中大門駅周辺地区の4つを都市拠点の中心と位置づけ、これら拠点間の円滑な移動を利便性の高い公共交通の構築により確保するとしている。

### ●国の動き

- ・デジタル革命の加速やコロナ禍を経て、「交通DX<sup>※4</sup>」等により、利便性・持続可能性・生産性が向上する形に地域交通を「リ・デザイン」(再構築)していくことが掲げられている。

※4 交通DX(デジタル・トランスフォーメーション):デジタル技術を活用して交通システム全体を革新し、移動の利便性、効率性、持続可能性を飛躍的に向上させようとする一連の取組

## 4 本市の公共交通に係る課題整理

### 1 まちづくりと市内外の移動に関する課題

- ・通勤・通学をはじめとした市内外への移動の足の確保のため、鉄道を軸とした各交通手段との接続が課題である。
- ・多核連携型の都市構造の構築にむけて、拠点を結ぶ公共交通の維持・確保が必要である。

### 2 持続的な運行継続に向けた課題

- ・「交通DX」等の積極的な推進や、交通手段毎の役割を明確にすることで、より合理的な公共交通体系を作り、運転手不足等に対応していく必要がある。
- ・地域全体の持続可能性を高めるために、公共交通においても「環境の配慮」や「地域住民の参画」等が求められている。

### 3 利用者数の維持に向けた課題

- ・市内全域において自家用車を運転できない人の移動手段を確保するとともに、利便性を向上させることで、利用者数を維持していく必要がある。
- ・公共交通を必要としている人が安心して利用できる、わかりやすい公共交通である必要がある。

## 5 基本理念、基本方針、目標

### 基本理念

#### 地域の暮らし、賑わい、交流を育む持続可能な公共交通の実現

将来的な人口減少や高齢化等への対応を見据え、市民生活や交通安全、地域経済や観光、健康づくり等の様々なまちづくり分野との連携や、市民、事業者、行政等の多様な主体との役割分担により、地域の暮らし、賑わい、交流を育む持続可能な公共交通の実現を目指します。

#### 基本方針 1 まちづくりと連携した公共交通網の整備

本市は、既成市街地が複数箇所に分散しながらも適度なまとまりを持って維持され、医療機関や商業施設、教育機関やコミュニティ施設などの様々な都市機能が立地しています。

路線バスやコミュニティバス、「のり一と射水」等が、それらを結んで市内移動を支えていることに加え、市内東西を運行する「あいの風とやま鉄道」や「万葉線」が、北陸新幹線駅を有する富山市や高岡市を結び、市民や来訪者の広域移動を支えています。

様々な交通同士の接続性の強化や待合環境の充実により誰もが円滑に利用できる交通体系の構築を図ることで、暮らしやすい居住環境の形成と移住・定住の促進につなげます。

#### 基本方針 2 交通DXによる持続可能な公共交通の仕組みづくり

昨今の技術革新によって、利便性、効率性、持続可能性を飛躍的に向上させることが可能となってきており、本市においても既に「のり一と射水」をはじめとした新しい仕組みにより、移動の利便性・効率性を高める取組を行っています。

このような「交通DX」を今後も推進することで、合理的な公共交通体系を形成し、持続可能な公共交通を構築します。

#### 基本方針 3 暮らしを支え、交流を促す交通機能の充実

公共交通は、児童・生徒や高齢者等、自家用車を運転できない人の移動や、外出機会の創出だけでなく、家族の送迎負担の軽減や高齢者の健康増進、交通事故交通弱者の防止、環境負荷の低減、まちの活性化・賑わいの創出など、様々な活動を支える重要な役割や機能を有しています。

今後、人口減少や高齢化がさらに進んでいく中、健康・福祉や教育、観光など他の分野と連携しながら、わかりやすい公共交通により、通学・通勤、通院・買い物など日常生活の移動手段を確保するとともに、地域内外の交流促進・住民参画を図る施策を展開します。

#### 目標 基本方針に基づいた各種施策の実施により、計画最終年度までに

1 利便性の向上により、人口減少社会においても公共交通の利用者数の維持を目指します。

2 交通DX等による公共交通の再編により、物価高騰下等においても市運行公共交通の収支の維持を目指します。

3 きめ細やかな運行により、公共交通全体の人口カバー率の向上を目指します。

## 6 地域公共交通の位置づけ

位置付け	系統	役割	確保・維持策
広域幹線	鉄道線	隣接市への広域交通を担う。	「富山県地域交通戦略」等に基づき県及び隣接市ならびに交通事業者と連携し確保・維持に努める。
	民間路線バス		
市内幹線	民間路線バス	交通結節点への移動を担う。	利用状況を踏まえた路線の見直しによる効率化により、持続可能な運行を目指す。
	コミュニティバス		
地域内交通	デマンド交通	運行エリア内の自由かつ効率的な移動を担う。	【共通】市内各地域を運行し、鉄道やバス等の幹線に接続する。 国・県補助等を活用し、持続可能な運行を目指す。
	その他の交通手段	上記交通手段でまかないきれない移動をカバーする。	